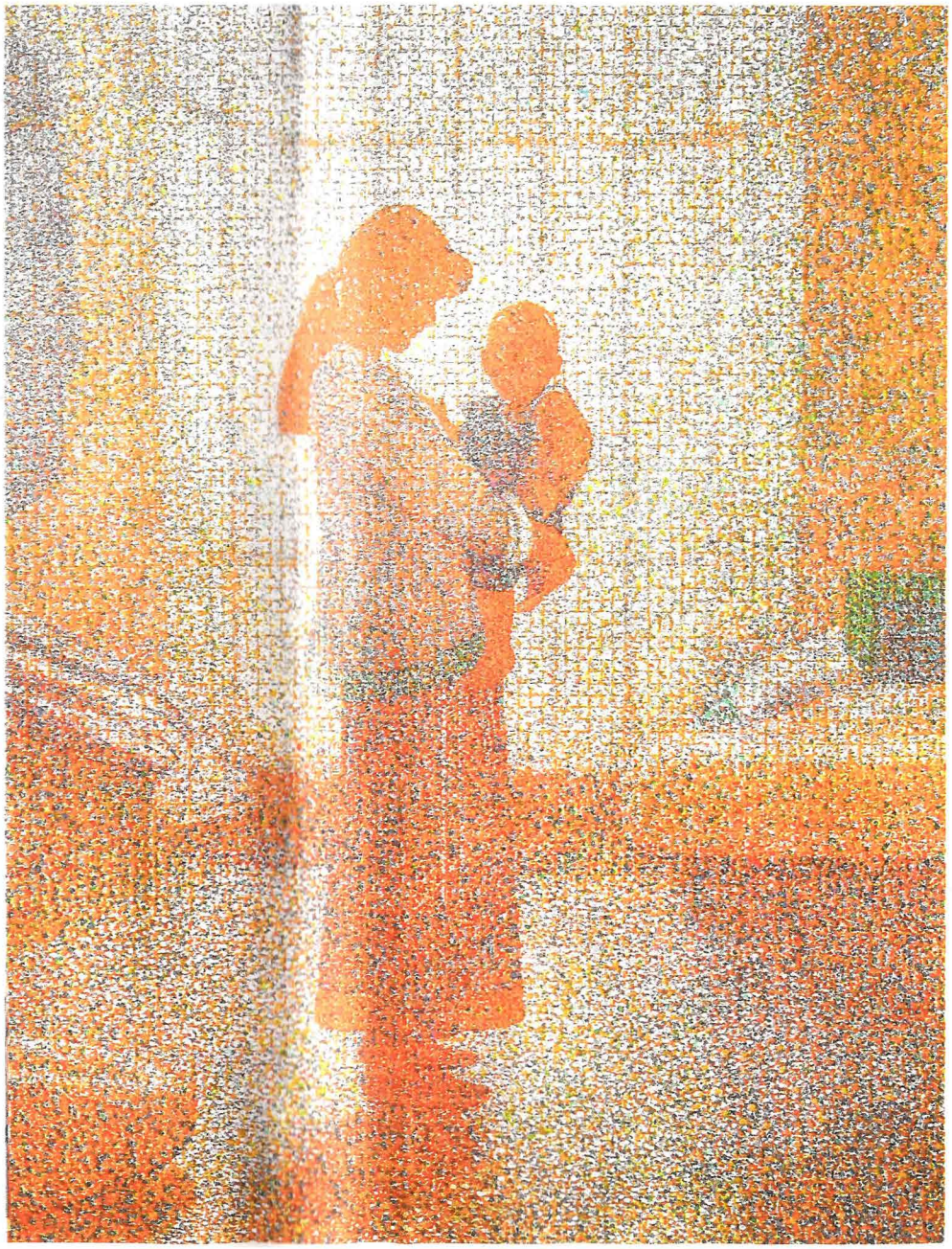
「HONEY」

油彩画P10号

# 点描で普遍的な愛



美へのいざない コレクション2018 ■14■

## 熊谷 有展さん（51）

＝熊本市＝（島原市出身）

オレンジ、青、白など1ミリほどの点が画面全体にひしめき、窓辺に立つ母子の愛らしい姿が浮かび上がる。色はパレットで混ぜるのではなく、見る人の網膜で混ざるようなイメージでちりばめた。

細い筆の先端だけを使い、半年かけて仕上げた。根気のいる点描画にこだわるのは「点はいわば物質の原子。無数に集まると存在になる。ストーリー性があり、奥深さが出る」と語る。

横向きの母親は肩幅が感じられ、幼子がしっかりと抱かれている。直接見えない部分を意識させるため、見える部分のデッサンに神経をとがらせた。

24年前、長男が生まれた時、母乳を与えながら深まる母と子の絆がうらやましく思えた。そんな関係をどうすれば画面で表現できるかと試行錯誤し、それまでの写実的な作風から点描画に転換。母子像を描き続けている。「どこにでもいる親子の姿から普遍的な愛や生命の輝きを伝えたい」。そんなメッセージが届くからか、琴線に触れ、目頭を熱くする人もいるという。

（中村修二）

キャンバスに向かう熊谷さん＝島原市城内3丁目、実家隣に構えるアトリエ

**くまがえ・ありのぶ** 1966年島原市生まれ。92年、武蔵野美術大大学院修了。94年、第70回記念白日会展で内閣総理大臣賞。95年、第27回日展で特選。96年に帰郷し、本県の公立中学、高校の美術教諭を経て、2000年から崇城大芸術学部講師、09年から教授。15年、第91回白日会展で伊藤清永賞。17年、改組新第4回日展で東京都知事賞。現在、日展特別会員、白日会常任委員。個展を重ねている。

月1回掲載します

2018年1月31日　長崎新聞　P.14